

【報告(1)】

「北九州市地域福祉に関する市民意識調査」  
の調査結果について



# 「北九州市地域福祉に関する市民意識調査」の調査結果について

## 1 調査の目的

保健福祉局では、地域で誰もが安心して暮らすことができるまちの実現を目指し、各種の施策を推進している。今後の地域福祉を推進するにあたって、地域における支え合い、地域福祉のネットワーク、地域活動の状況、保健福祉全般に関する市民の意識を把握し、次期地域福祉計画策定の基礎的な資料とするため、調査を行ったもの。

## 2 調査の対象及び回収率など

	調査対象	対象者数	回収数	有効回収率
対象	20歳以上の 市内居住者	6,300人	3,347人	53.9%
方法	郵送による配布・回収			
期間	平成21年10月13日～11月13日			

## 3 主な調査項目

地域の支え合いについて	近所の人との付き合い方 地域における支え合いに対する考え方 近所の支え合いを感じるか など
地域福祉のネットワークについて	いのちをつなぐネットワーク事業の認知度 行政が地域に入り課題解決へ取り組むことへの考え方 見守りをして欲しい相手 など
ボランティアや地域での自治活動について	ボランティアや地域活動への参加の有無とその理由 地域活動活性化の方法に対する考え など
保健福祉全般について	保健福祉施策の充実についての実感 今後、力を入れるべき施策についての考え 地域福祉充実のための行政と地域住民の関係のあり方 など

## 4 調査結果の概要

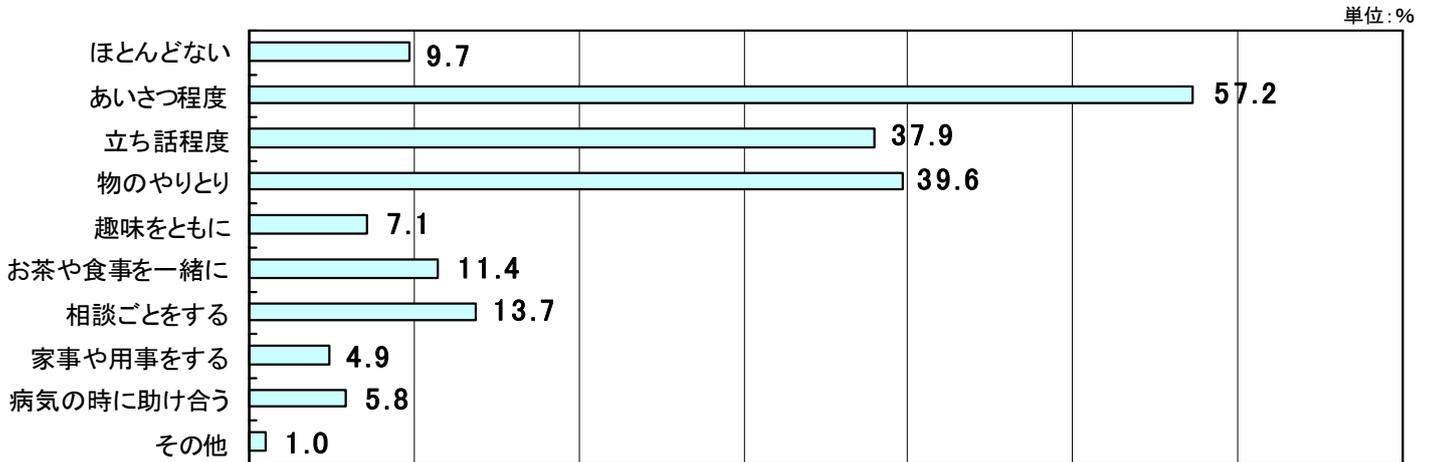
### I 地域の支え合いについて

#### (1) 近所の人との付き合い方(複数回答) 【報告書 48頁】

…何らかの付き合いがある方はおおむね9割

近所の人との付き合いが「ほとんどない」と回答した方は9.7%であり、おおむね9割の方は何らかの付き合いを持っている。付き合い方としては、「あいさつ程度」(57.2%)が最も多く、「物のやりとり」(39.6%)や「立ち話程度」(37.9%)がこれに続いている。

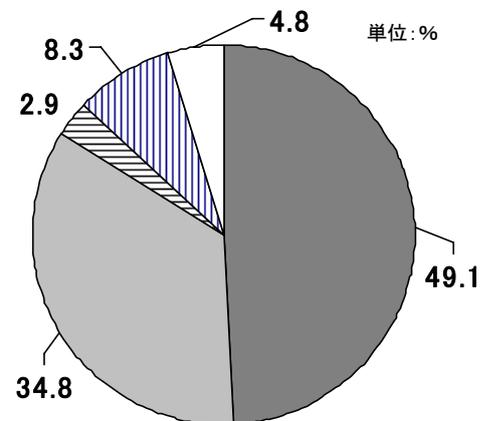
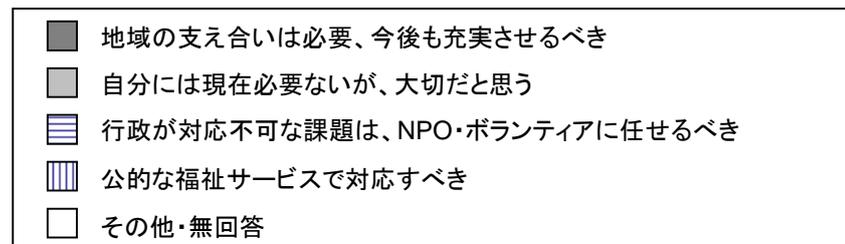
全体として、浅い付き合いが多く、「趣味をともに」「お茶や食事を一緒に」などのどちらかといえば深い付き合いは、それぞれ1割程度となっている。



#### (2) 地域の支え合いについての考え方 【報告書 53頁】

…8割以上が支え合いは必要

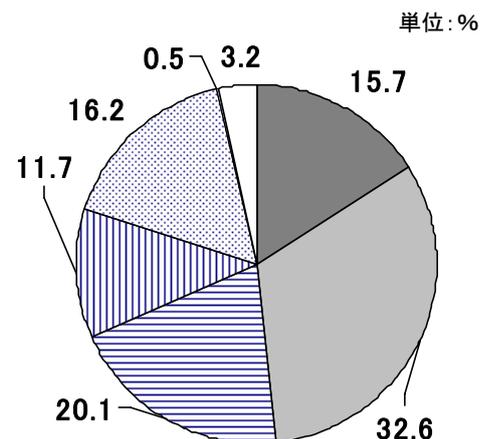
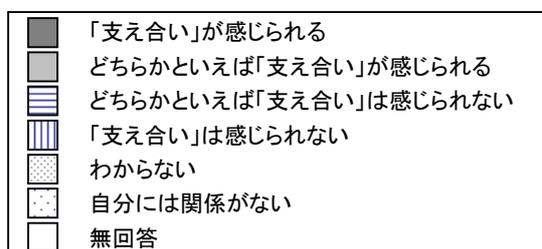
地域における支え合いについては、「地域における支え合いは必要であり、今後も充実させるべき」が49.1%、「現在の自分には必要ないが、大切だと思う」が34.8%となっており、計83.9%の人が地域の支え合いは必要であり、大切だと回答している。



#### (3) 近所の支え合いの感じ方 【報告書 56頁】

…約半数が「支え合いを感じる」

近所の人同士の「支え合いが感じられる」(15.7%)、「どちらかといえば支え合いを感じられる」(32.6%)の合計は48.3%であり、「支え合いが感じられない」(11.7%)、「どちらかといえば支え合いを感じられない」(20.1%)の合計の31.8%を上回った。

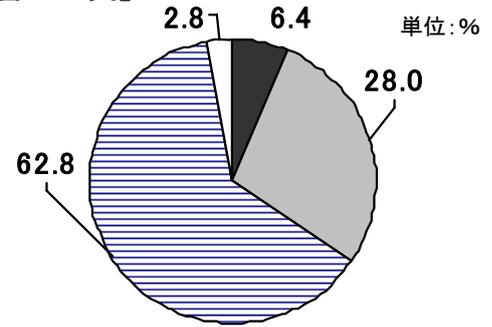
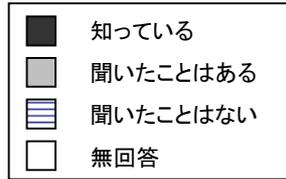


## II 地域福祉のネットワークについて

### (1) 三層構造による地域福祉のネットワークづくりの認知度 【報告書 69頁】

…「知っている」「聞いたことはある」が3割強

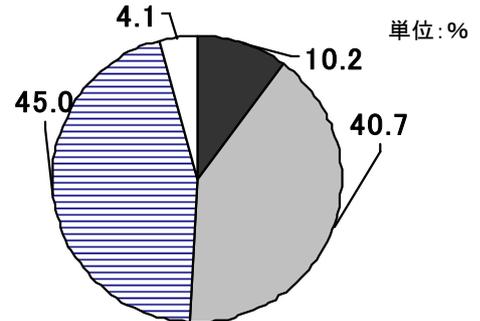
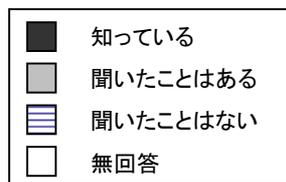
三層構造による地域福祉のネットワークづくりについては、「知っている」(6.4%)と「聞いたことはある」(28.0%)との合計は34.4%で、「聞いたことはない」が62.8%となっている。



### (2) いのちをつなぐネットワーク事業の認知度 【報告書 73頁】

…約5割が「知っている」「聞いたことはある」

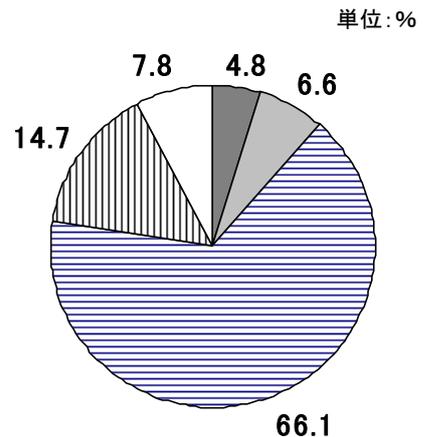
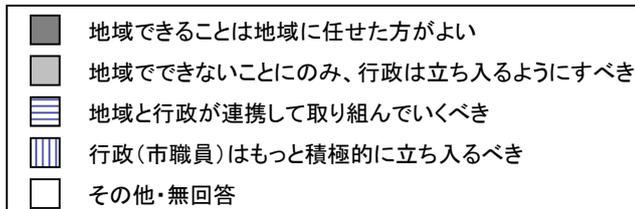
いのちをつなぐネットワーク事業の認知度については、「知っている」(10.2%)と「聞いたことはある」(40.7%)との合計は50.9%で、約半数となっている。



### (3) 行政が地域に入り課題解決に取り組むことへの考え方 【報告書 77頁】

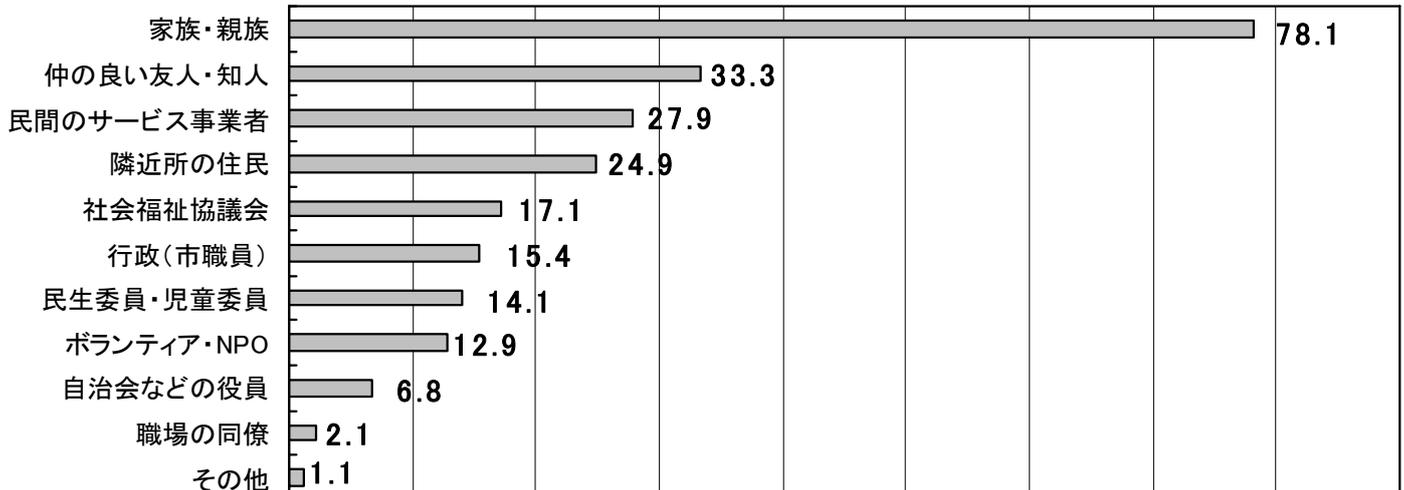
…3人に2人が「地域と行政が連携すべき」

行政が地域に入り課題解決のための支援を行うことについて、「地域でできることは地域にまかせた方がよい」は4.8%、「地域でできないことのみ、行政は立ち入るようにすべき」が6.6%、「地域と行政が連携して取り組んでいくべき」が最も多く66.1%、「行政(市職員)はもっと積極的に立ち入るべき」が14.7%となっている。



### (4) 見守りをして欲しい相手(複数回答)…約8割が「家族・親族」に期待 【報告書 81頁】

見守りをして欲しい相手を尋ねたところ、78.1%の方が「家族・親族」と回答している。続いて、「仲の良い友人・知人」(33.3%)、「民間のサービス事業者(ケアマネージャー等)」(27.9%)、「隣近所の住民」(24.9%)となっている。



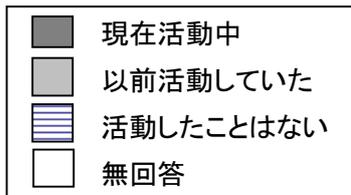
### Ⅲ ボランティアや地域における自治活動について

#### (1) ボランティア活動経験の有無 【報告書 95頁】

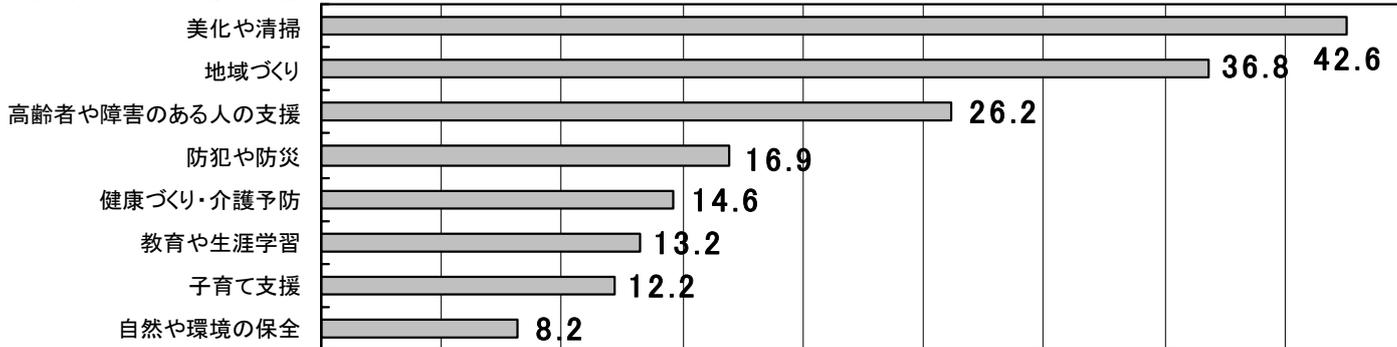
…未経験が約7割

ボランティア活動については、68.3%の方は経験したことがないと回答している。

ボランティア活動の内容としては、「美化や清掃」「地域づくり」「高齢や障害のある人の支援」が多い。



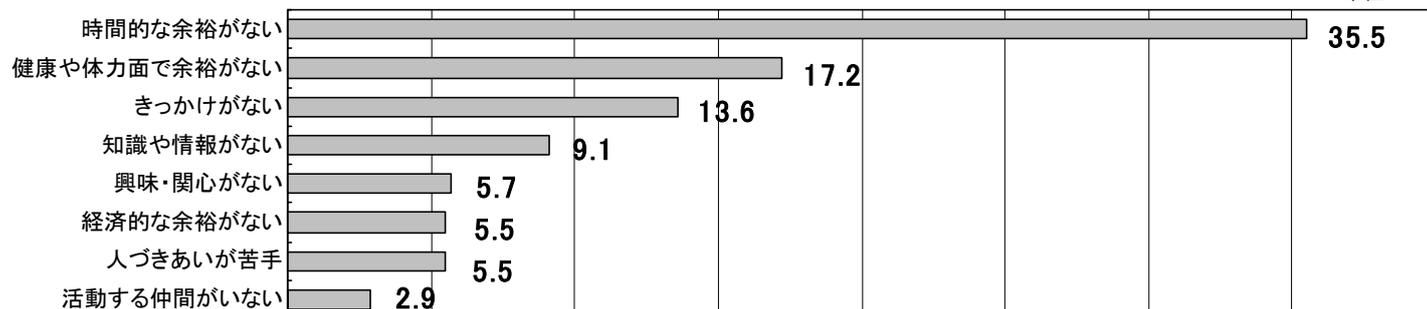
【ボランティア活動の内容】(複数回答)



#### (2) ボランティア活動をしたことがない理由 【報告書 109頁】

…「時間的な余裕がない」「健康や体力面で余裕がない」「きっかけがない」が主な理由

ボランティア活動をしたことがない理由としては、「時間的な余裕がない」(35.5%)が最も多く、次いで「健康や体力面に余裕がない」(17.2%)、「きっかけがない」(13.6%)、「知識や情報がない」(9.1%)などとなっている。

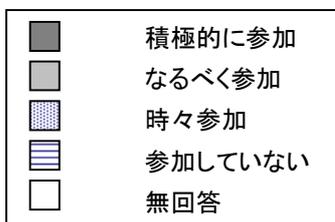


#### (3) 地域活動への参加の有無 【報告書 123頁】

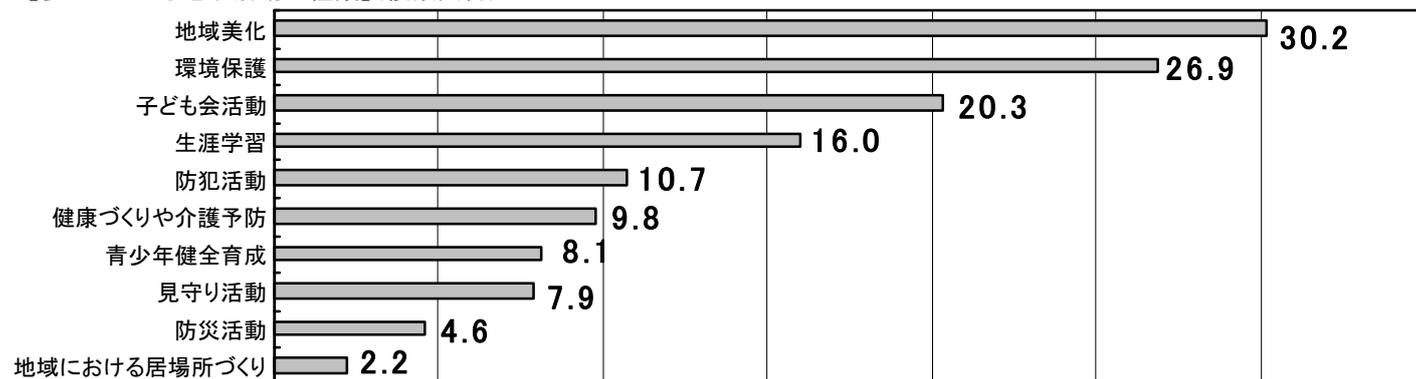
…約3人に1人が参加している

地域活動へ参加している方は「積極的に参加している」(5.3%)、「なるべく参加している」(11.0%)、「時々参加している」(15.9%)を加えて32.2%であり、「参加していない人は63.1%である。

地域活動の内容としては、「地域美化」「環境保護」「子ども会活動」が多い。



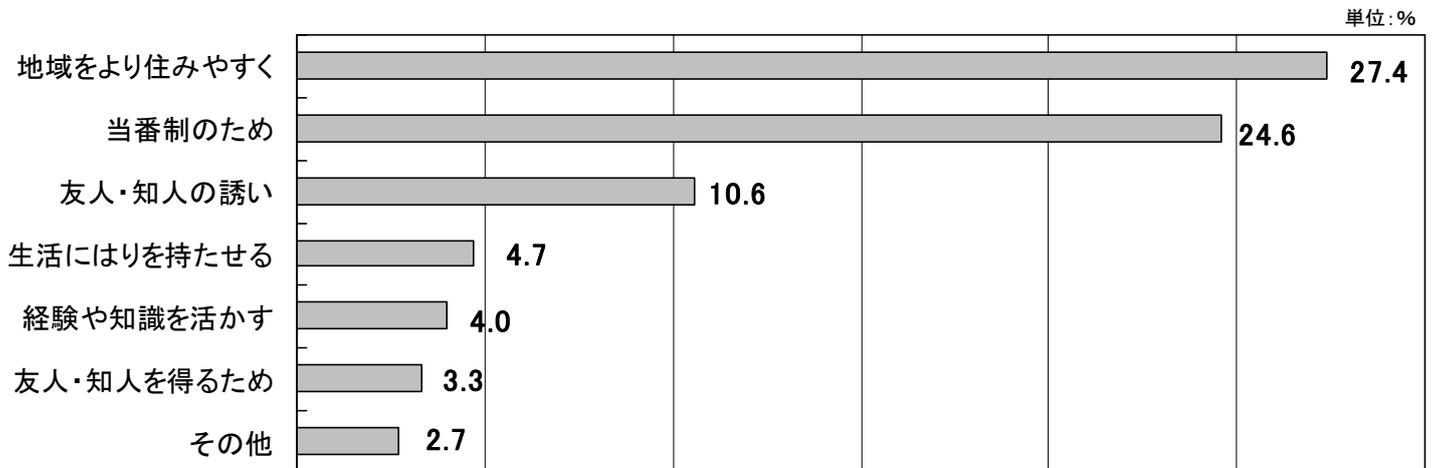
【参加している地域活動の種類】(複数回答)



### Ⅲ ボランティアや地域における自治活動について

#### (4) 地域活動に参加した一番の理由…「地域をより住みやすく」が最も多い 【報告書 132頁】

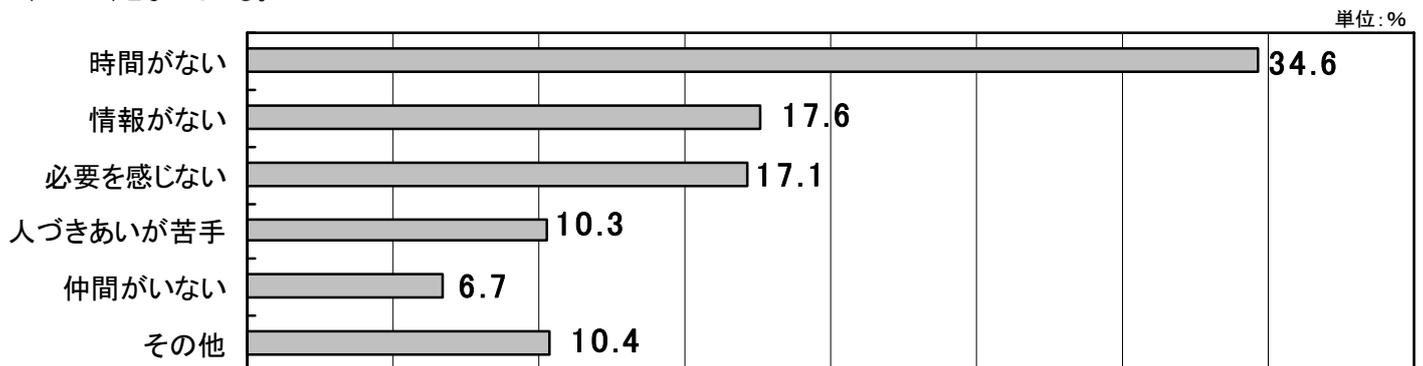
地域活動に参加した主な理由は、多い順に「地域をより住みやすく」(27.4%)、「当番制のため」(24.6%)、「友人・知人の誘い」(10.6%)となっている。



#### (5) 地域活動に参加していない理由 【報告書 126頁】

…「時間がない」「情報がない」「必要を感じない」が主な理由

地域活動に参加していない理由は、第一に「時間がない」(34.6%)、次いで「情報がない」(17.6%)、「必要を感じない」(17.1%)となっている。



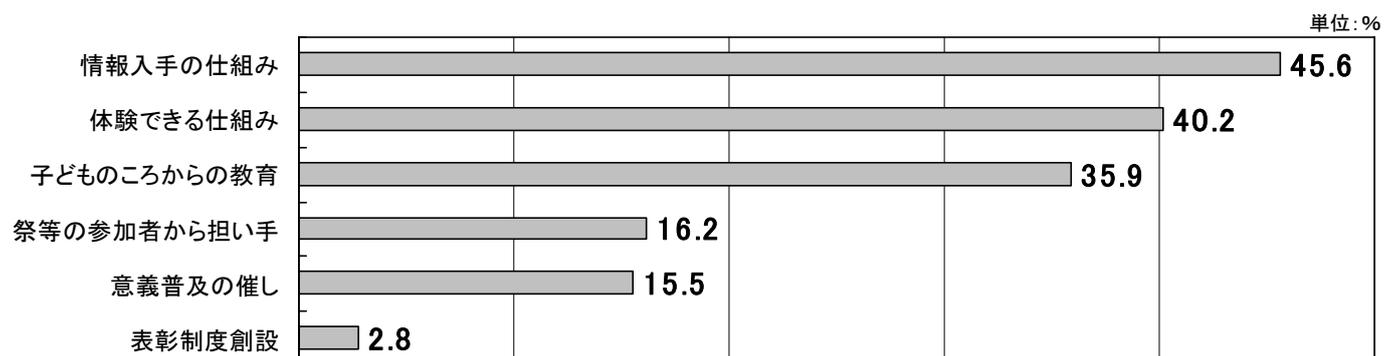
#### (6) 地域活動活性化の方法(複数回答) 【報告書 135頁】

…「情報入手の仕組み」「体験できる仕組み」「子どものころからの教育」が上位

「どうすれば地域活動が活性化すると思いますか」という問に対して、「地域活動に関する情報が入手しやすい仕組みを充実する(情報入手の仕組み)」が45.6%と最も多く、次いで、

「興味・関心のある地域活動を自由に体験できる仕組みをつくる(体験できる仕組み)」が40.2%

「子どもの頃から地域活動を行う精神を育むための教育を充実する(子どものころから教育)」が35.9%、と続いている。



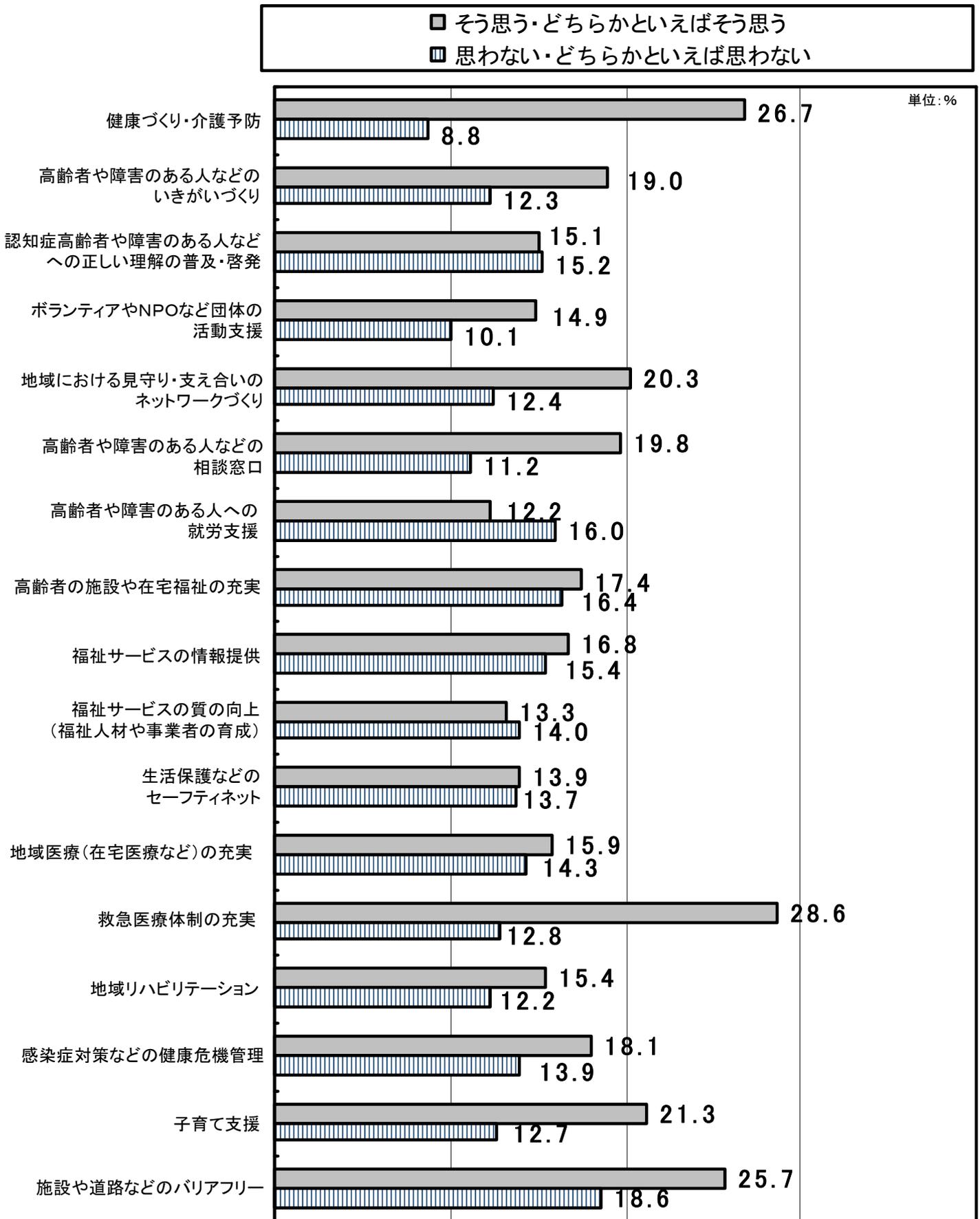
## IV 保健福祉全般について

### (1) 保健福祉施策の充実についての実感〔17項目〕

【報告書149頁】

…「救急医療体制の充実」「健康づくり・介護予防」「施設や道路などのバリアフリー」が上位

「本市の保健福祉施策について、充実してきたと実感しますか」という問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が最も高いのは、「救急医療体制の充実」(28.6%)である。その他、「健康づくり・介護予防」が26.7%、「施設や道路などのバリアフリー」が25.7%と続く。



## IV 保健福祉全般について

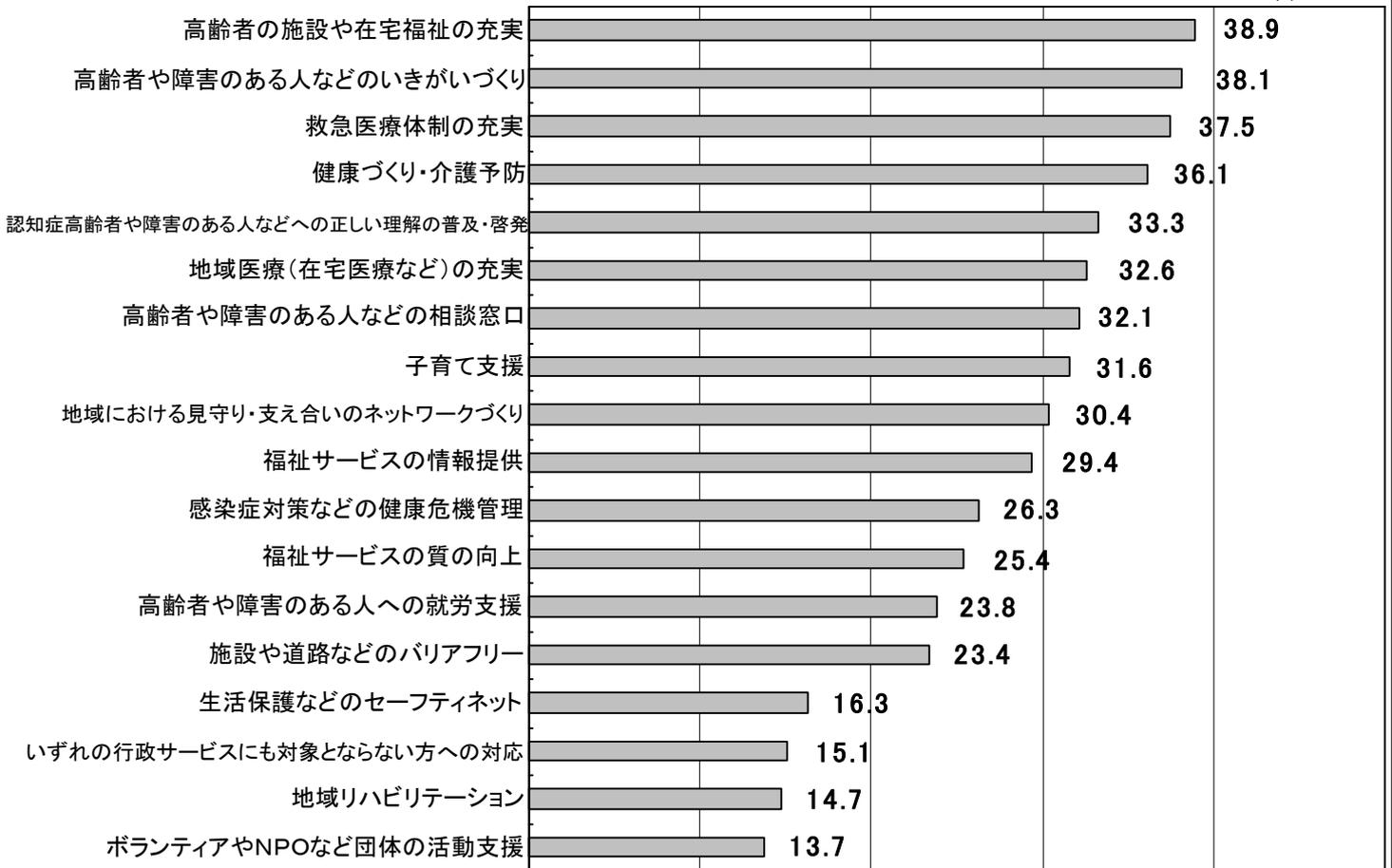
### (2) 今後、力を入れるべき施策(複数回答)

【報告書 168頁】

…「高齢者の施設や在宅福祉の充実」「高齢者や障害のある人などのいきがづくり」が上位

今後力を入れるべき施策について尋ねたところ、「高齢者の施設や在宅福祉の充実」(38.9%)、「高齢者や障害のある人などのいきがづくり」(38.1%)「救急医療体制の充実」(37.5%)が上位となっている。次いで、「健康づくり・介護予防」(36.1%)、「認知症高齢者や障害のある人などへの正しい理解の普及・啓発」(33.3%)となっている。

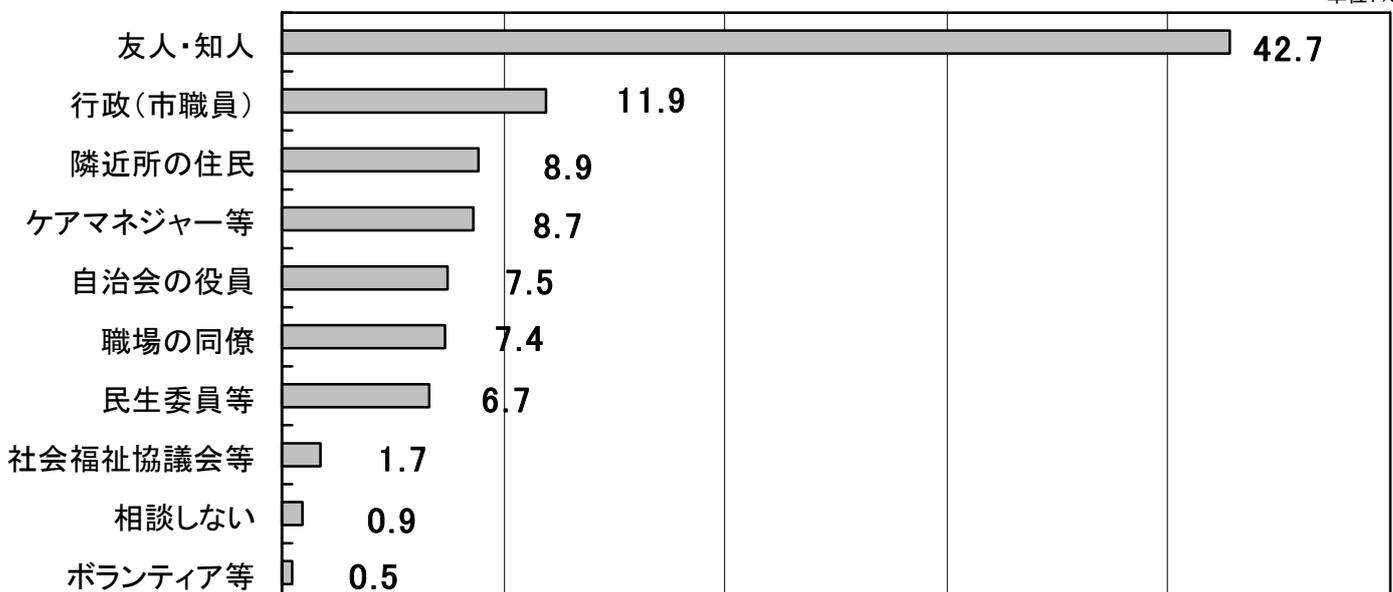
単位:%



### (3) 福祉についての、家族・親族以外の主な相談相手…「友人・知人」が約4割 【報告書 176頁】

「家族・親族以外で福祉のことについて相談できる人はいるか」という問に「いる」と回答した方に対して、主に誰に相談するかと尋ねたところ、「仲の良い友人・知人」が42.7%と最も多くなっている。ついで、「行政(市職員)」が11.9%、「隣近所の住民」が8.9%、「民間のサービス事業者(ケアマネジャー等)」が8.7%となっている。

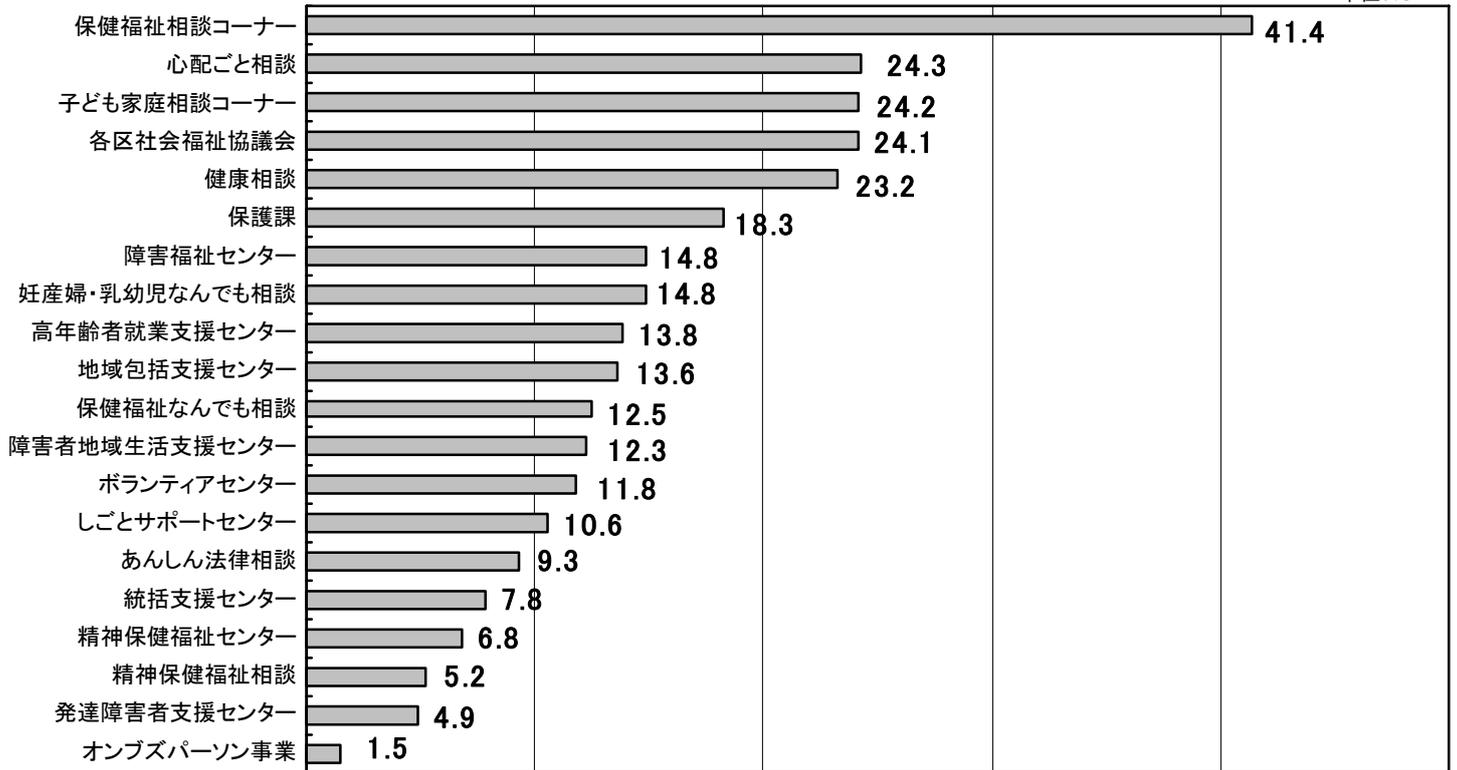
単位:%



## IV 保健福祉全般について

### (4) 知っている相談窓口や相談事業 【報告書 180頁】

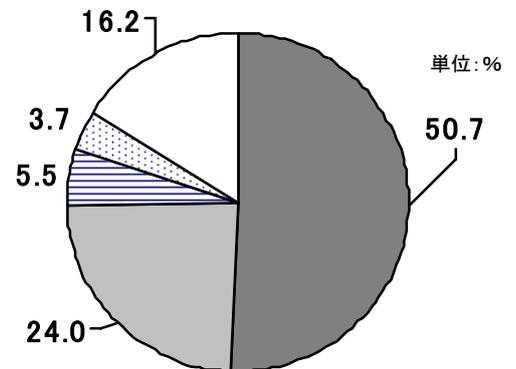
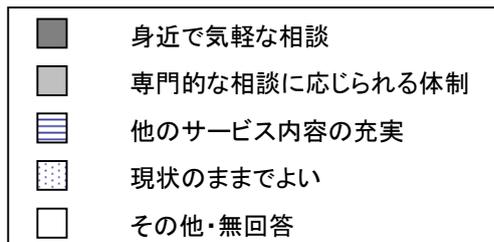
…「保健福祉相談コーナー」「心配ごと相談」「子ども家庭相談コーナー」「各区社会福祉協議会」が上位認知度の高い相談窓口や相談事業は、「保健福祉相談コーナー(区役所に設置)」が最も高く41.4%、次いで「心配ごと相談」(24.3%)、「子ども家庭相談コーナー」(24.2%)、「各区社会福祉協議会(区役所に設置)」(24.1%)と続いている。 単位:%



### (5) 相談体制の整備についての考え 【報告書 186頁】

…「身近なところで気軽な相談」が半数以上

相談体制については、「身近なところで気軽な相談ができる場所が多くあった方がよい(身近で気軽な相談)」が50.7%となっており、「ある程度集約して専門的な相談に応じられる体制にした方がよい(専門的な相談に応じられる体制)」の24.0%を上回っている。



### (6) 地域福祉充実のための行政と地域住民との関係のあり方 【報告書 196頁】

…「地域住民も積極的に取り組むべき」が半数近く

地域福祉充実のための行政と地域住民との関係のあり方について、「行政の責任であり、地域住民が協力する必要はないと思う」は4.8%、「行政ができない場合に限って、地域住民も協力していくべきだと思う」が17.2%、「行政だけでなく、地域住民も積極的に取り組むべきだと思う」が最も多く45.0%、「家庭や地域で助け合いができない場合に限り、行政が支援すべきだと思う」が16.2%、となっている。

